開かれたマルチメディア教材は可能か

フォーサイスのCD-ROMの教育的効果について

安田　静

〈研究目的〉

フォーサイスがZKM（カールスルーエ・アート&メディア・センター）の協力を得て作成したインタラクティヴ・コンピュータ・インスタレーション『インプロヴィゼーション・テクノロジーズ』[1]が，フランクフルト・バレエ団の中でどのように利用されているか，その教育的効果について検証する。さらに，より一般的な意味での教材，及びマルチメディア作品としての評価を試みる。

〈研究方法〉

振付家とダンサーへのインタビュー，それにCD-ROM（抜粋版）の構造の分析などを通して，製作の意図，及びバレエ団の中での実際の利用状況を明らかにする。

〈研究結果及び考察〉

・CD-ROMの構造と機能

このマルチメディアの作品／教材は，もともとバレエ団に新しく入ったダンサーたちにフォーサイス特有の「用語」を覚えてもらう目的で作成された。フォーサイス自身が「暫定的な用語集のようなもの」[2]と説明するとおり，ここでいう「用語」とはまず，文字どおり，フォーサイスがバレエ団の中で頻繁に使う独特の言葉のことである。

CD-ROMの主画面は4つのセクションに分かれており，彼に特有の用語（collapsing：折り畳む，matching：一致させる，back approach：後方への働きかけ，等々）を含むそれぞれのチャプターは，フォーサイス自身のデモンストレーション付きレクチャーで明解に定義されるとともに，リハーサルやパフォーマンスで実際に使われている例へと，クリック一つでアクセスできる構造になっている。意図的に階層を浅くして作られたこの構造のおかげで，利用者は目的のチャプターへと容易にたどり着くことができ，フォーサイスが定義する用語が，動きの生成／変換条件としてどのような性格を持っているのかをかなり正確に理解できるのだ。

このようにして，フォーサイスの振付にみられる特有の動き（一見骨のない軟体動物のうごめきにも似た，規則性の見いだしにくいもの）の基本的な単位となる「語彙」を理解してゆくことで，そうした複雑な動きを分節的に認知することが一般の観客にとっても可能になるだろう。ここに，このCD-ROMの高い教育的効果が認められる。

・開かれた教材

もう一点教材として優れている点をあげるなら，このデジタル・アーカイヴが単にフォーサイスの「用語」を映像・音声付きで説明し定義するのみならず，インプロヴィゼーションを行う際の極めて多様なアイディアを提示していることだろう。

様々なソフトを組み合わせてデジタル・アーカイヴを作ったり，バレエの用語をわかりやすく定義しようとする試みは，1995年のトロントでの学会[3]などでも幾つか紹介されていたが，それらはあくまでもできあがった作品の記録であり，用語の定義／説明であるに留まっていた。これに対し，所与の動きの「変換」と新しい動きの「生成」という2つの重要な役割を担うツール[4]としてのフォーサイスのCD-ROMは，単なる用語集ではなく，いわば開かれた作品／教材であり，バレエ団のメンバーにとってのみならず，多くのダンサーにとって示唆にとんだものなのである。

〈結論〉

勿論，動きの「語彙」をただ集めただけでは作品は成立せず，それらをいかにつなぎ合わせて構成するのかが，語彙そのもの以上に重要である以上，このCD-ROMはフォーサイスの作風の全てを説明する，というものでは毛頭ない[5]。むしろここでは，このマルチメディア教材が教育的価値のみならず，一つの開かれた作品としても極めて水準の高いものであることを強調しておきたい。

〈注〉

1　Improvisation Technologies-William Forsythe's "Self Meant to Govern". Concept：William Forsythe；Interface concept：Nik Haffner, Volker Kuchermeister, Christian Ziegler；Coding：Volker Kuchermeister；Screen design：Christian Ziegler. Produced at ZKM/Center for Art and Media Karlsruhe, 1994. なお，本研究で取り上げるCD-ROM（593.5MB）は，同一タイトルのデジタル・アーカイヴ（4GB）からの抜粋版である。

2　1996年3月4日，フランクフルトにて，ウィリアム・フォーサイスへの個人インタビュー。

3　他にも，Life Formsというグラフィック・ソフトの詳細な分析や，同ソフトの教育現場での活用状況の報告が興味深かった。学会紀要のタイトルは次の通り。A. William Smith (ed.). Dance and Technology Ⅲ：Trancending Boundaries (Proceedings of the Third Annual Conferece), York Universiy, Toronto, 1995

4　前掲のインタビューでのフォーサイスの説明による。

5　バレエ史のコンテクストから見たフォーサイスの作品の特殊性は，SDHSの学会発表および紀要（Yasuda, Shizuka. "Invisible Turns Visible：Forsythe's CD-ROM", in Proceedings of the Nineteenth Annual Conference of Society of Dance History Scholars, University of Minnesota, Minneapolis, 1996, pp.157−163.）で強調した。

本研究は文部省科学研究費補助金による研究成果の一部である。